

インタビュー
INTERVIEW



十和田フィルハーモニー管弦楽団
団長

かわむら くにあき
川村 邦明 さん

まちのオーケストラへようこそ

十和田フィルの奏者の自給率は高いです。足りないパートは他から呼んでいますが、できるだけ自分たちで賄って「まちのオーケストラ」であることを大事にしています。だから演奏会に毎年来てくれるお客さまの中には「この音は優しい」とか「親しみやすい」などと言ってくださる方が少なくありません。十和田フィルを将来につなぐためには、次代を担う人を育てることや、ここを巣立ったメンバーがいつでも戻って来やすい楽団であり続けることが大切だと考えています。また、親しみを持って応援してくれるファンを増やすことも重要です。音楽は考えるものではなく感じるもの

です。無くても生きていけますが、出会ったことで人生がより豊かに広がる可能性があります。十和田フィルがそのきっかけを提供できればいいなと思っています。演奏会のプログラムに裏プログラムを載せているのもそういった理由からです。十和田フィルで初めてクラシック音楽に興味をもった人が、演奏する側になってもいいし、聴く側になってもいい、どんな形でもいいので音楽を楽しんでほしいですね。十和田フィルで音楽の楽しさを知った人がベルリンフィルでもウィーンフィルでも臆せずに聴けるようになったら最高です。



写真提供 工藤祐幸さん

音楽への情熱があふれた— **楽興の時**

子どもがオーケストラを学びたいと言ったとき、保護者事ではないでしょうか。ジュニアの現団員は、小学1年生から高校3年生までの21人。オーケストラの編成には人数が足りないため、演奏会では十和田フィルの団員らがエキストラ出演するなどして楽団を支えています。指導するのは、常任指揮者の福田守さんをはじめ高橋幸男団長、石川泉さんら。そのほか楽譜の準備や練習の調整などを、保護者らが協力して行っています。

ジュニアの現団員は、小学1年生から高校3年生までの21人。オーケストラの編成には人数が足りないため、演奏会では十和田フィルの団員らがエキストラ出演するなどして楽団を支えています。指導するのは、常任指揮者の福田守さんをはじめ高橋幸男団長、石川泉さんら。そのほか楽譜の準備や練習の調整などを、保護者らが協力して行っています。

ジュニアの新入団員の初ステージは「きらきら星変奏曲」が恒例です。新入団員は、舞台の最前列中央でこの曲のメロディを奏

ジュニアの新入団員の初ステージは「きらきら星変奏曲」が恒例です。新入団員は、舞台の最前列中央でこの曲のメロディを奏



きらきら星を演奏する新入団員

つながる管弦楽

ジュニアの現団員は、小学1年生から高校3年生までの21人。オーケストラの編成には人数が足りないため、演奏会では十和田フィルの団員らがエキストラ出演するなどして楽団を支えています。指導するのは、常任指揮者の福田守さんをはじめ高橋幸男団長、石川泉さんら。そのほか楽譜の準備や練習の調整などを、保護者らが協力して行っています。

今年7月2日、市民文化センターで、国際的に活躍している指揮者の三河正典氏を迎えて第24回定期演奏会が行われました。演奏会のプログラムには「早わかり音楽教室マナー講座」という、曲の解説と共に拍手のタイミングを教えられるページがあります。「【抜粋】今年もおせっかいな身勝手裏プログラム」拍手の強要（教養）をお届けします。マイクやアンプを使わないクラシック音楽の演奏会では、楽器の音をホールいっぱい響き渡らせるには、会場が静かであることが欠かせません。この拍手の虎の巻をご一読いただき、気持ちよく演奏会をお楽しみいただければ幸いです。」

指揮者が指揮棒を振り上げると輝かしい音がホールいっぱい響き渡りました。オーケストラは、音楽の大きなうねりと共に体をしならせ、全身で奏でます。一人一人が持つ音楽への情熱が歌ごころや躍動といった表現へ結

び付き、演奏する喜びを音と共に放ちます。ソロ演奏になると、他のメンバーは心の中で「頑張れ」と声援を送るようにソリストを温かく見守り、練習で苦労していた早い動きの箇所になると、周囲も一緒にリズムをとって肩を揺らします。これまで練習で培ってきた信頼が大きな連帯感となり、オーケストラの一体感を生み出すのです。やがてフィナーレに向かってオーケストラは一音一音思いを込めて力を振り絞ります。「ブラボー」音の余韻と共に湧き上がる歓声と拍手。胸に感動が流れる瞬間です。楽団員は緊張から解き放たれ、満たされた思いで終演を迎えます。



列をなして開場を待つ来場者

